

司馬遼太郎「菜の花の沖」に見る

201204026

# 海商高田屋嘉兵衛、ゴローニン事件と北方領土問題

海事研究家・大阪大学/神戸大学非常勤講師 野澤和男

## § 1. 高田屋嘉兵衛

- (1) 内憂外患の時代
- (2) 嘉兵衛の生涯
- (3) 嘉兵衛たちの乗った千石船
- (4) 嘉兵衛歴史探訪
- (5) 高田屋闕所と追賞・正五位、その後

## § 2. ゴローニン事件

- (1) 背景
- (2) ゴローニン事件と解決

## § 3. 北方領土問題

ロナルド・ドーア氏の論評他/今後の期待



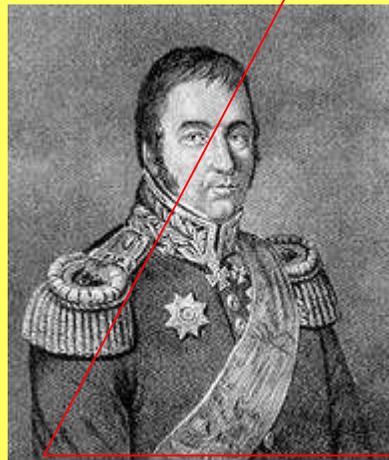
Такадая Кахая  
高田屋嘉兵衛



千石船“浪速丸”を背景に  
Нодзава Кадзуо



千石船の構造 (西宮市郷土資料館)



Василии Михайлович Головнин  
ゴローニン艦長



Петр Иванович Рикордо  
リコルド副艦長

- 徳川時代中期後半、日本は2つの国難に見舞われていた。「内憂外患」即ち、「国内経済問題と外国船接近」である。
- 淡路島都志の極貧農民の子として一人物が生まれた。高田屋嘉兵衛である。商品経済システムが回り始める時代に蝦夷地交易に思いを馳せて廻船業を志して北前海商となった。また、北方防備を進める幕府の要請で御用船頭となり蝦夷地国後択捉航路開発、物資/兵員輸送、官船建造・漁場経営に活躍した。
- レザノフ来航と露寇事件に端を発するゴローニン事件に巻き込まれて露ディアナ号に拿捕抑留されたが、副艦長リコルドに協力してゴローニン艦長釈放に導き日露友好関係を回復した。
- “あの時代に生きた人間の中では嘉兵衛が一番偉いと思う。”と司馬遼太郎は語った。
- “内憂外患”の徳川幕政下、北方領土の蝦夷地で嘉兵衛等は何をなし、何をどのように残したのかを考えるとともに、200年後の現在、今だ返還されていない北方領土問題を再確認したい。

# § 1. 高田屋嘉兵衛(1769-1827)

ポイント:

- ・ “あの時代に生きた人間の中では嘉兵衛が一番偉い”(司馬遼太郎談)
- ・ 「菜の花の沖」とは何を示唆するのか？
- ・ 嘉兵衛から北方領土問題

→ 嘉兵衛が活躍した  
国後、択捉の海とは？



ゴローニン著「日本幽囚記」  
岩波文庫訳本



高田屋嘉兵衛像

# まず、嘉兵衛が活躍した国後、択捉の海と関連事項を概観する。

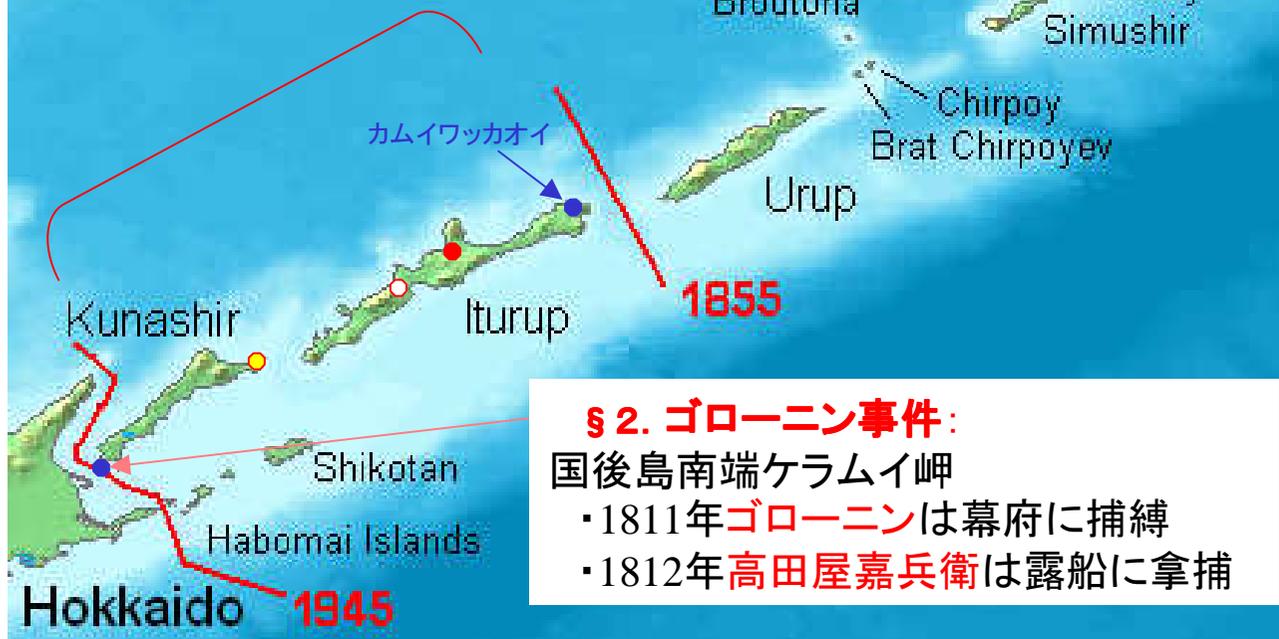
## § 1.

•**嘉兵衛**は「辰悦丸」に乗り**国後島-択捉島航路①**を開拓、択捉島に17カ所の**漁場**を開いた。(1799)

•**近藤重蔵**は嘉兵衛の操船で択捉島に渡り、**カムイワツカオイ**の高地に「**大日本恵土呂府②**」の標柱を立て**日本の領土**であることを宣言。(1800)



- ▲ [JPG wwwなどから高田屋シンボ雑誌写真国後瀬戸海流図.jpg](#)
- [JPG wwwなどから高田屋シンボ雑誌写真大日本恵登呂府.jpg](#)
- [JPG wwwなどから高田屋シンボ雑誌写真北方探検図.jpg](#)



**§ 2. ゴローニン事件:**  
 国後島南端ケラムイ岬  
 ・1811年**ゴローニン**は幕府に捕縛  
 ・1812年**高田屋嘉兵衛**は露船に拿捕

**§ 3. 北方領土問題**  
**サンフランシスコ平和条約**  
 第二条【領土権の放棄】  
 (c) 日本国は、……**千島列島**……**対するすべての権利、権原及び請求権を放棄する。**

**North Pacific Ocean**  
 図、出典: 北方領土問題-Wikipediaに加筆  
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8C%97%E6%96%B9%E9%A0%98%E5%9C%9F%E5%95%8F%E9%A1%8C>

②近藤重蔵は択捉島探検にあたり原住民を威圧し畏敬の念を持たせるために、官船、随伴船に日の丸を染め出した吹抜幟、武田信玄の旗印「不動如山」の旗を艦に立てること、さらに鎖帷子の着用と紅白の指図旗をもって渡海することを幕府から許可をとった。択捉島北端カムイワッカオイで先住ロシア人の残した十字架を引き抜き「**大日本恵登呂府**」と書いた標柱を立て領土宣言をした。

↓市川左団次扮する重蔵が熊を投げ飛ばし標柱を建て直した1シーン。(芝居「山開目黒新富士」1893年)

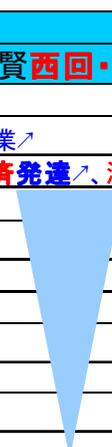


山開目黒新富士 市立函館博物館 豊原国周画

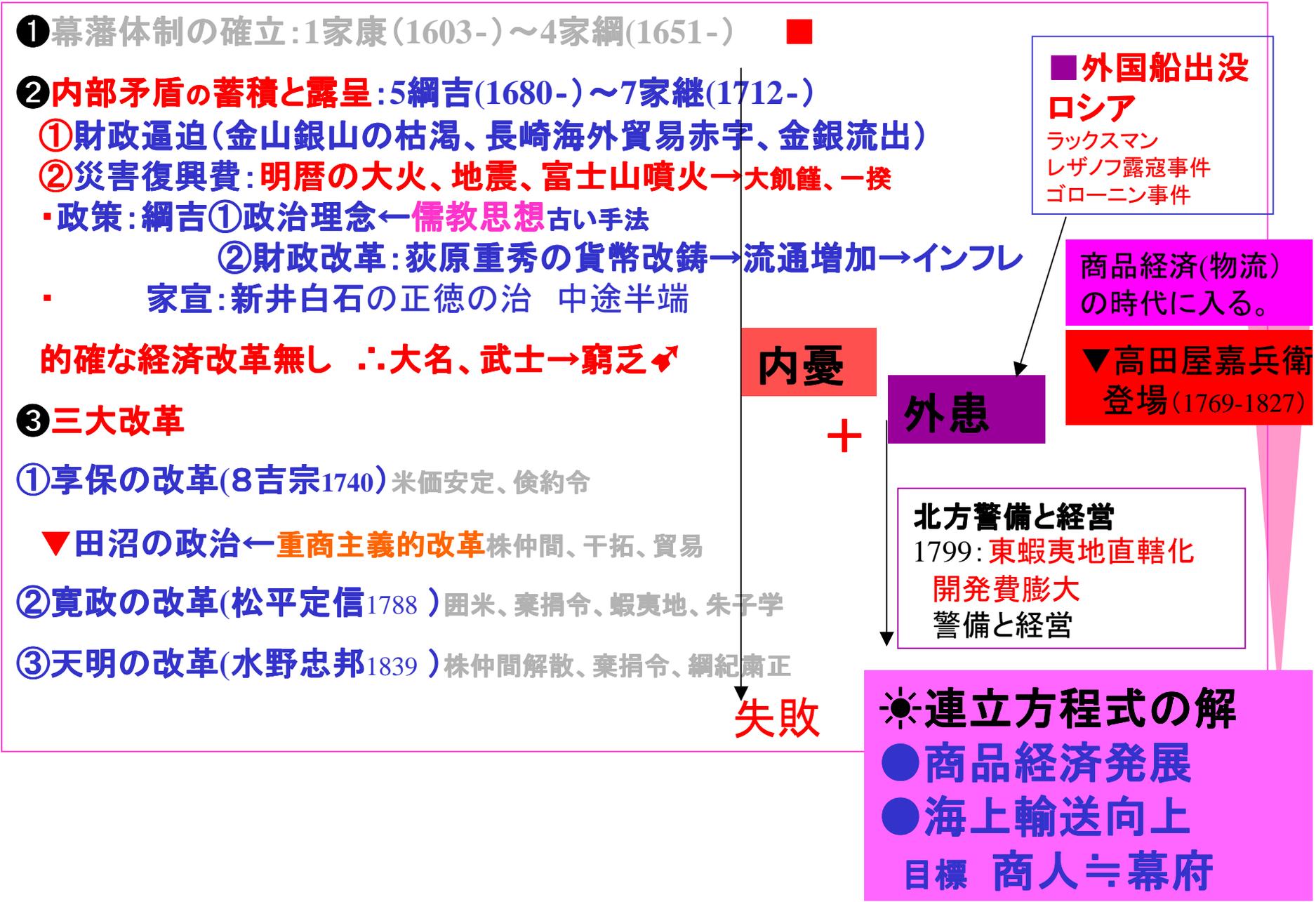
出典: 特別展「豪商 高田屋嘉兵衛」資料(高田屋嘉兵衛展実行委員会) 2000年



西暦	将軍	政治	関連事項	高田屋嘉兵衛	船舶海運
1603	家康	江戸幕府開く	家康征夷大將軍		蘭リーフデ号 豊後へ(1600)
1605	秀忠2	封建国家の完成			
1623	家光3	幕藩体制成立と	1639年鎖国断行、1635参勤交代、大船建造×、1637島原の乱		
1651	家綱4	諸藩文治政治	●農本主義●交通/陸上・海上↑1619樽廻船初め		
1680	綱吉5		1657年江戸明暦大火、1638樽廻船初め		1670-72
1709	家宣6	幕藩体制に揺るぎ	火事、洪水、地震、米価騰貴 飢民多し	外国船出沒	河村瑞賢西回・東回航路
1712	家継7	商人→貨幣経済、商品作物、富	▼農民抗争、百姓一揆(享保の乱)、打ち毀し		
1740	吉宗8	①享保の改革	倭約令・上米上納等増税による財務再建、消火制度		農業、産業↑
1756	家重		米価騰貴・蓄米禁止大飢饉		商品経済発達↑、海運ニーズ↑
1765	家治		関東20万農民一揆		
1769			大飢饉	歳0 嘉兵衛生まれる	
1770			ロシア船来航・海防問題	1	
1771			ロシア船阿波に漂着	2	
1772		田沼意次の政治	株仲間公認→営業税(運上、冥加)、専売、	3	
1773		賄賂政治	海産物、貨幣制度→商業重視政策、→蝦夷地露交易調査	4	
1775		▼経済問題		6	
1777			1778ロシア船蝦夷地来航通商求 松前氏拒否	8	
1783			▼天明の大飢饉 浅間山噴火▼撫民政策	14	奉公・和田屋喜十郎 大黒屋幸太夫アリウシヤン漂着
1784			蝦夷地開拓始める。田沼政治の肅清	15	
1786	家斉	②寛政改革 松平定信	田沼ショック→寛政の打ちこわし	17	ロシア人千島に来る
1789		倭約/義捐令、帰村令/困米	社会政策重点、農村改革、本百姓維持	20	最上徳内千島探検得撫島に至る
1791		異学禁止	保守性が強く挫折	22	北方問題 外国船渡来処置
1792			ラックスマン来航・幸太夫帰国 林子平海国兵談	23	①ラックスマン・幸太夫帰国
1798			近藤重蔵「大日本恵十呂府」標柱	29	
1799		東蝦夷7年直轄	幕府エトロフ島海路船頭募集	30	
1800			国後-択捉航路開発: 嘉兵衛 蝦夷丸	31	官船5隻建造 蝦夷地定雇船頭・名字帯刀
1804			ロシア大使レザノフ長崎に来航	35	箱館に造船所建造造船経営 ②レザノフ来航
1806			フヴォストフ/ダヴィドス蝦夷地寇掠	37	箱館大火救援活動新店舗下附
1807		1807松前奉行置く・蝦夷地を直轄			
1810		1808間宮林蔵 樺太探検		41	択捉場所請負御下命
1811			ゴローニン事件発生	42	③ゴローニン千島に来航
1812			嘉兵衛ロシア艦に捕らえられる	43	リコルド/嘉兵衛ゴ救済協議
1814		イギリス人来航		45	★ゴローニン事件解決
1821		幕府直轄断念 大日本沿海ヨチ全図	▼幕政転換→直轄領→松前藩戻す	52	蝦夷地定雇船頭に戻る
1822			よってカヒは定雇船頭解雇	53	大阪野田に別荘を建て
1823			シーボルト来朝 1825異国船打ち払い令	54	、病身の妻ふさを養生 箱館を高田屋本店
1827		西欧勢力の圧迫	イギリス小笠原、1829シーボルト事件、イギリス東蝦夷来航	58	嘉兵衛没
1832			1830 全国的大飢饉つづく		
1837		1835 坂本龍馬生	大塩平八郎の乱、米モリソン号		高田屋密貿易疑い
1839	家慶	③天保改革 水野忠邦	株仲間海産(商品経済統制)土知令(知行地直轄)幕府権力強化	帰村→農村再建	
1853	家茂	黒船来航ペリー、ロシアブチャーチン来航			



# 内憂外患の時代と高田屋嘉兵衛の位置付け まとめ



# ①何故、商品経済が発展したのか？

▼徳川初期：武断政治、経済統制→権力強化、徳川600万石、金銀山直轄・鎖国（貿易独占）  
米中心の社会：適度な流通体制で十分だった。街道、海路整備（角倉了以）

▼徳川中期以降：

①江戸の繁栄：参勤交代(1635) →妻子江戸在住、

人口増加↑ 購買力↑

蔵米↑、生活物資↑、贅沢品（貴重、新鮮、珍味）↑

②商品作物の栽培：農業技術向上 Spiraling

1) 米生産力↑余剰米の販売↑ 2) 商品作物↑ 3) 各地の特産物↑

その他技術向上：漁業、林業、鉱山、製塩→各地の特産物↑

金肥（干鰯、干鰯、油糟などで生産↑）

③物流ニーズの加速→輸送量増大 with 文化度向上による物資、造営土木用木材

千石船のneeds、樽廻船、北前舟→活発化 →商品経済加速

※ 海運流通基盤の完成：東回り/西回り航路の改良（河村瑞賢：幕命、1671, 1672）

## ②何故、船舶輸送が発達したのか？

輸送量の増大 →

- ・大量輸送
- ・高速輸送
- ・遠方まで輸送
- ・風の力で
- ・少人数で
- ・少ない労力

1石 ÷ 10尺(3乗) = 278litre ÷ 280litre = 0.28m<sup>3</sup>  
米1石の重量 = 40貫 = 150kg、米1俵 = 60kg

▲1000石船 = 150重量トン → 2500俵

1500石船 = 225重量トン → 3750俵 ←→ 馬1900頭/馬子1900人

2000石船 = 300重量トン → 5000俵

▲乗組員: 1000石船で約14~15人

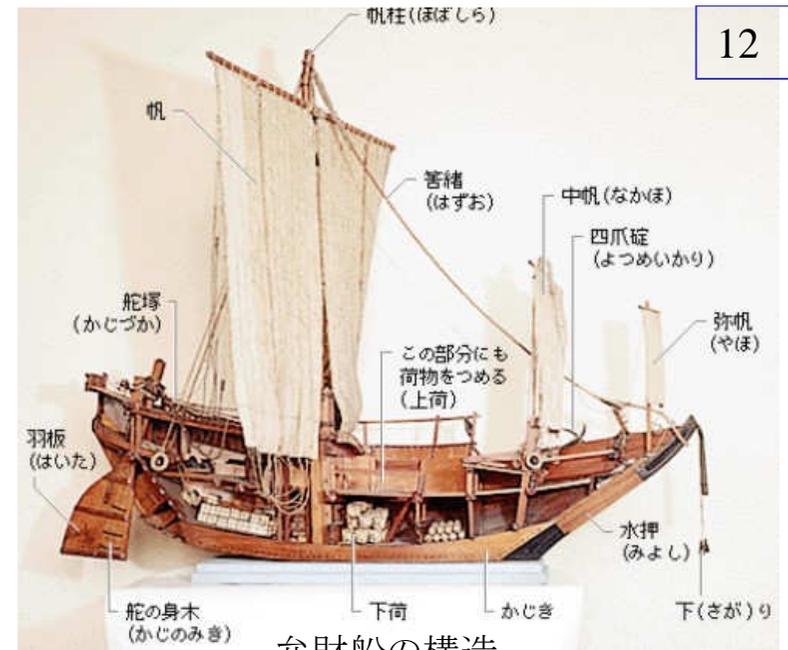
△船のサイズ

865石船: 全長 × かわら長 × 肩幅 × 型深さ = 29.9 × 13.4 × 7.4 × 2.4 in m (海の時空間展示)

1500石船: = 36 × 16 × 8.9 × 2.8 in m (相似推定)

備考: 1石 = 10斗 = 100升 = 1000合

人間1人: 3合/day = 1,095合/年 ÷ 1石/年 ÷ 150kg/年 = 米2.5俵/年 … (現) 米代10万円/年



弁財船の構造

<http://shibayan1379.noblog.net/blog/k/10140607.html>

※貨車がない時代、大量の荷物は陸路での輸送より、海路での輸送の方が優れていた。江戸時代では、大きな輸送に街道を利用することはなく、陸路: 消費者に直接渡る物資の輸送や遠距離に行く旅人が利用した。

## (2)嘉兵衛 (1769-1827)の生涯 → 年表

司馬遼太郎談→“あの時代に生きた人間の中では嘉兵衛が一番偉い”と云った訳は？

●嘉兵衛は1769年淡路島都志に生まれた。その生涯を①～⑥の時期に分ける。←年表

①**極貧/苦労時代～自立** (～24) : 11歳出稼ぎ、新在家若衆組の苛め、網元娘ふさ、虐待、村抜け、兵庫へ、樽廻船水主、おふさ出奔、船大工町にて所帯、沖船頭、北風荘右衛門貞幹と邂逅

②**持船船頭として蝦夷地航海** (～30) : 辰悦丸1,500石船完成、北前船持船船頭として蝦夷地交易、高田屋の屋号公称、▲幕府東蝦夷地7年仮直轄化によりエトロフ島海路試乗の**船頭募集**、応募

③**幕府御用船頭** (～32) : 蝦夷地御用御雇、国後-エトロフ航路開拓・近藤重蔵委託で航海、エトロフ漁場開拓、艦船5隻建造/回航、蝦夷地巡察船頭(高田屋総出)、蝦夷地定雇船頭、幌泉漁場請負、名字帯刀  
開発費財政圧迫→独立採算産物売却

④**幕府東蝦夷地直轄・政商・択捉経営** (～41) : ▲幕府の**直捌制度実施**に伴い、蝦夷地御用取扱人(物産売捌方)にin 27名、造船所建造、▲幕府から官船建造(45隻)の功績、ロシア来襲時の兵員輸送で功労賞、**択捉場所請負命じられる**。事務経費が圧迫 松前商人暴利×

★箱館の高田屋→大盛況(海運、造船、漁場開拓、売り捌き、インフラ……) →☀**高田屋全盛期**

⑤**ゴローニン事件とその解決** (～45) : 嘉兵衛手船観世丸で択捉→箱館回航途中、国後島ケラムイ沖でディアナ号に拿捕、カムチャッカへ、約1年抑留、リコルドと協議、ゴロウニン事件解決、蝦夷地定雇船頭に戻る。

⑥**晩年**まで(～52) : ▲幕府、蝦夷地直轄支配を断念→松前藩に返す。弟金兵衛、松前藩御用達、箱館に本店、都志に帰る。**1827年没す**。復讐/嫉妬、怨恨による陰謀→1833年:高田屋闕所

# 嘉兵衛 (1769-1827) の年表

西暦	年齢	出来事	関連事項	注
1769	1	淡路国津名郡都志本村に生まれる。幼名菊弥		
1775	6	都志本村医師小出氏から読み書きを習う。船に興味を持つ。都志川河口で潮の満干を調べる	1772田沼意次老中	極貧/下積み/苦勞時代
1781	12	家を出る。都志浦新在家の親戚弥右衛門方に寄宿漁業を始める。和田屋喜十郎方で商売の手	1778ロシア船蝦夷地来航	極貧: 都志→11歳で出稼ぎ→新在家若衆組
1789	20	都志浦新在家の網屋幾右衛門二女ふさと知り合う。 ●極貧苦勞・努力時代	1783幸太夫アリューション漂着	→いじめ→網元娘おふさと恋仲→許されぬこと
1790	21	兵庫に出て堺屋喜兵衛方に身をよせ、樽廻船の水主として働く。 ①		→虐待→村抜け→兵庫
1792	23	兵庫西出町でふさと世帯を持つ。水主から表仕になる。	1786徳内蝦夷千島探検	おふさ出奔 兵庫船大工町にて所帯をもつ。
1793	24	沖船頭(雇われ船頭)になる。 ★北風荘右衛門貞幹と知遇	1792ラックスマン来航幸太夫	江戸一番樽廻船船頭 ●商品経済発達
1795	26	和泉屋伊兵衛の船に乗り出羽国酒田(山形県)に航海する		北風荘右衛門貞幹 北風の湯/工楽松右衛門
1796	27	辰悦丸1500石が完成。持船船頭となり箱館に交易。高田屋の屋号公称 ●自立の途へ ②	ロシア 脅威!!	北前船・持船船長 儲けのコツ、1000両/1航海
1799	30	▲幕府東蝦夷地を7年仮直轄化 エトロフ島海路試乗の船頭募集 嘉兵衛応募	▲幕府東蝦夷地経営体制	幕府直々の経営←軍事的・経済的 松前×
		幕府の蝦夷地御用御雇→幕府役人 近藤重蔵知遇委託クナシリ-エトロフ航路開拓		官民兼業、
		▲エトロフ島開発の幕命を受け、兵庫で物資・資材・職人の手配を行う ●持船船頭→東蝦夷		民: 船長、持船、海運、輸送販売、航路開発、
1800	31	近藤重蔵に従い辰悦丸以下5艘でエトロフ島に航海、西海岸に17ヶ所の漁場を開拓 ③		官: 蝦夷地定雇船頭、蝦夷地巡察団先導輸送、
		▲幕府から蝦夷地開拓用の官船5艘建設の命を受けて兵庫に帰る。 ※開発費が幕府圧迫		艦船建造・回航、漁場開拓請負、漁業、
1801	32	官船5艘を箱館に回航 ウルップ島まで★幕府の蝦夷地巡察に従う。嘉蔵→間宮林蔵樺太探検		インフラ開発
		幕府 蝦夷地定雇船頭、幌泉漁場請負を命ず。三人扶持、手当金27両、名字帯刀 ※独立採算体制に転換		所謂、政商
1802	33	エトロフ経営に従事: エトロフ島アリモイに築港する		インフラ開発: 築港、造船所建設
		▲幕府、蝦夷奉行(箱館奉行)→東蝦夷地を直轄地←船作事場(造船場)建設 ●事業繁忙	1804レザノ長崎来航	艦船建造、兵員輸送
1806	37	▲幕府の直掬制度実施に伴い、嘉兵衛蝦夷地御用取扱人(物産売捌方)に指名 in 27名 ④	1806-07フウオ 蝦夷地寇掠	蝦夷地御用取扱人物産売捌方
1809	40	▲幕府から官船建造(45隻)の功績、ロシア来襲時の兵員輸送で功勞賞	南部津軽出 高田屋 船	▼レザノ暴走→露寇事件
1810	41	▲幕府から、エトロフ場所請負を命じられる。 ◆高田屋全盛時代		
1812	43	嘉兵衛、親世丸でエ→箱館回航中、国後島ケムライ沖でディアナ号に拿捕される。カムチャッカへ	1811ゴローニン事件	拿捕される。ゴローニン事件に巻き込まれる。
		嘉兵衛、抑留生活 嘉兵衛/リコルド:ゴローニン釈放の協議・尽力 ●ゴローニン事件 ⑤		→解決
1814	45	ゴローニン事件解決 嘉兵衛、再び幕府の蝦夷地定雇船頭に。幕府功賞金5両を下賜		根室場所を請負う。
1821	52	▲幕府、蝦夷地直轄支配を終了→松前藩復領。弟金兵衛松前藩御用達。箱館に本店 ●晩年	▼幕府蝦夷地直轄支配終了	箱館本店繁盛
1823	54	→都志 ▲幕府異国船打払令、蘭甲比丹からオランダ語訳「日本幽囚記」入手、邦訳出版 ⑥	1832嫌疑、33關所、没収	都志帰郷、灌漑事業
1827	58	没する。	1869 冤罪、1911 正5位	

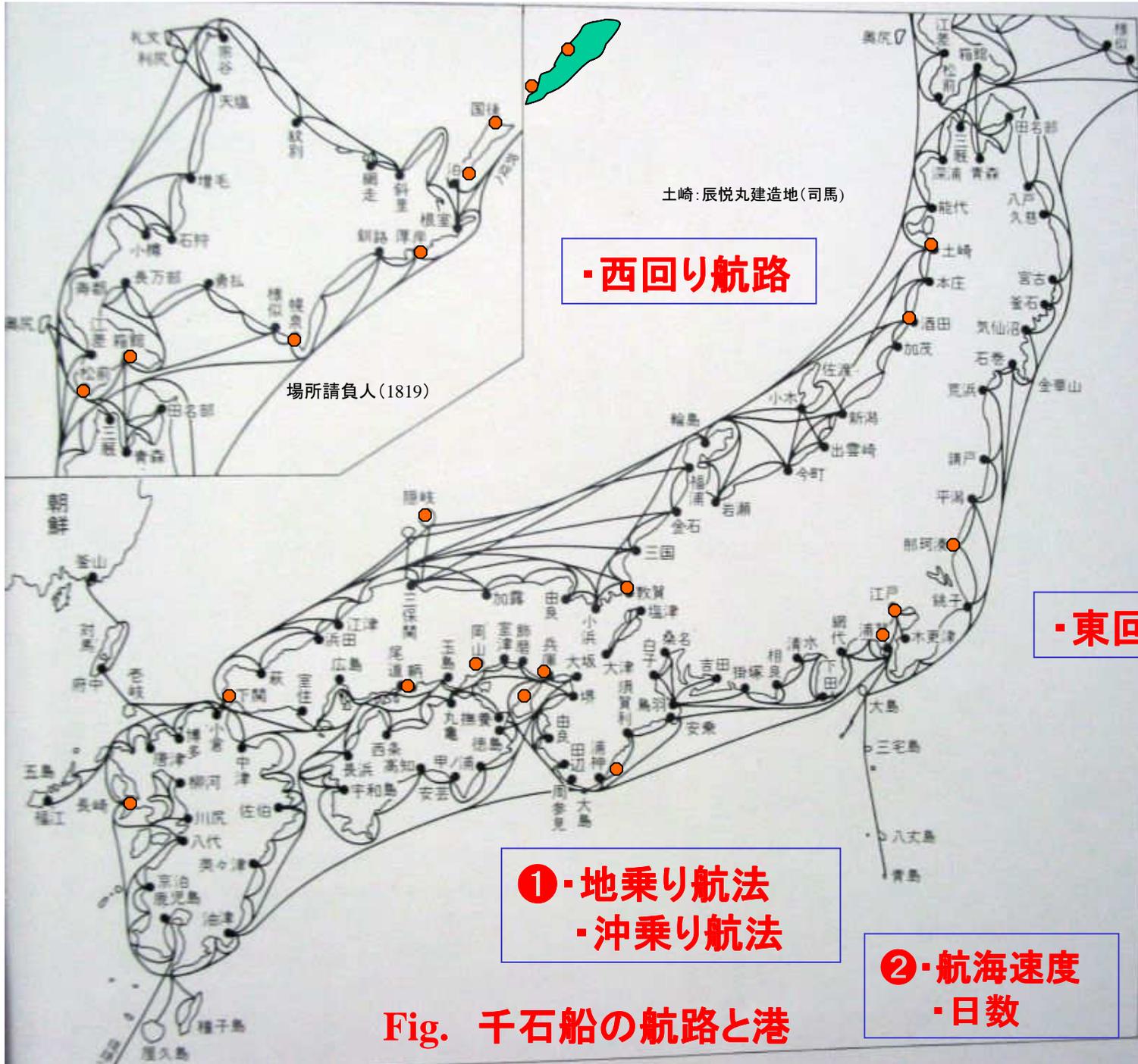
- 商品経済の発達初期 …海運輸送……ハード・ソフト(船舶・船頭・経営センス)↔
- 幕府の方針: 蝦夷地警備と直轄地独立採算経営…a)造船・海運ハード・ソフトと人材ニーズ↔  
 内憂外患に対処できる人的資本、社会資本いずれも幕府には欠乏or皆無 ←蓄積してこなかった。  
 応募するが希望者がいない→ すべて嘉兵衛任せ 幕府ポテンシャルの低下
- 司馬 : 徳川幕政の衰亡の兆しをみた。 「嘉兵衛、頼むからやってくれぬか。金は出す。…」

## 質問1

高田屋嘉兵衛は  
何故、北前航路  
を選んだのか？

- 1) 蝦夷地航海を憧れていた。
- 2) 同業者の競争が少ない。





## ①地乗りと沖乗り

①地乗り：沿岸港を各駅停車的に航海、夜は港泊、日数がかかる。

②沖乗り：遠海を海流に乗って一気に航海  
漕帆兼用船から帆走専用船として迅速化した。

背景：耐航性向上/船体構造艤装の改良/航海技術の向上/船磁石使用

## ②航海速力と日数

新綿番船と新酒番船(初荷特急航海) ← 帆船レース到着の順番を競う  
→ 賭の対象/その年の立値段決定

・新綿→1694年菱垣廻船荷主・問屋による管理下  
ルート：大坂安治川口→浦賀  
所要日数：50時間(平均速力7kt)1859年

・新酒→1730年樽廻船が菱垣廻船から独立  
10～11月、1818年以降12～2月新酒、寒酒嗜好  
ルート：大坂安治川口(後西宮)→品川  
所要日数：57時間(平均速力6.6kt)1790年

### ▲通常の日数

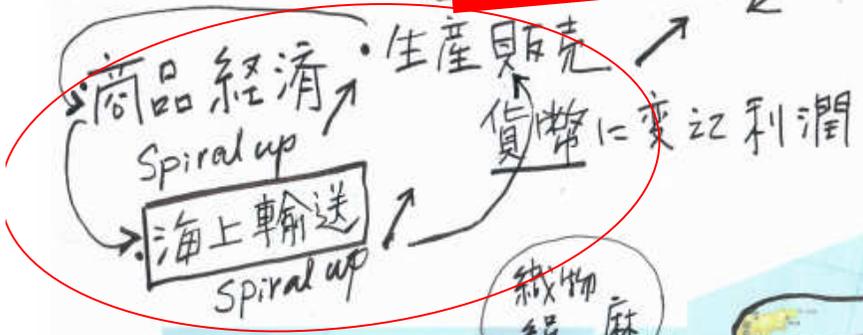
上方←→江戸

- ・菱垣廻船、樽廻船など定期航路船や城米、藩米の輸送船が航海
- ・航海日数：ほぼ10日(700/10×24=2.9km/h=1.6kt...各駅・夜間泊含)

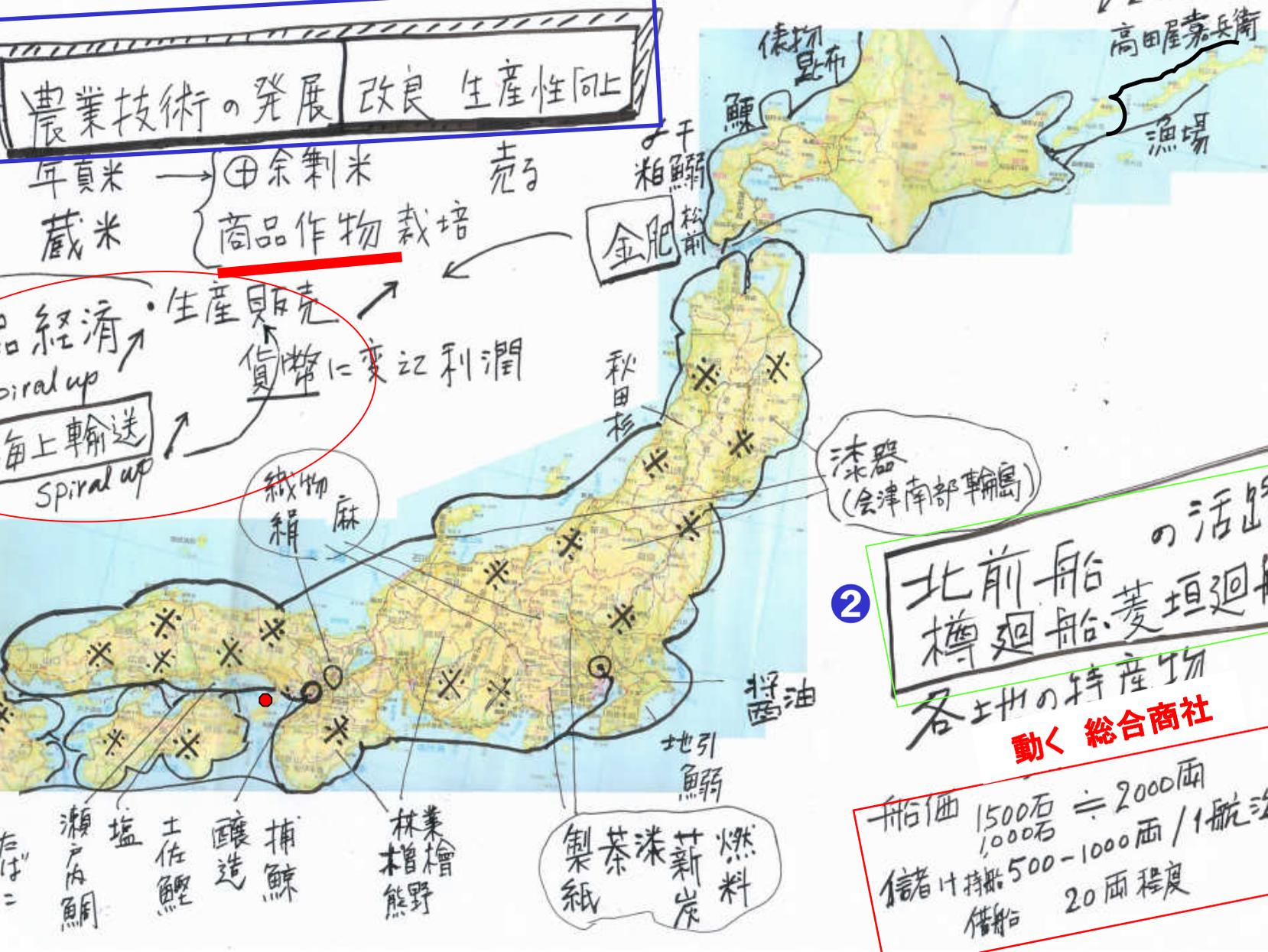
# 質問2: 嘉兵衛の商品経済哲学は？

① 農業技術の発展 改良 生産性向上

年貢米 蔵米 → ⊕ 余剰米 売る  
商品作物栽培



木綿陶磁器 肥前鯨



② 北前船の活躍  
樽廻船・菱垣廻船  
各州の特産物  
動く 総合商社

船価 1500石 ÷ 2000両  
1000石  
儲け持船 500-1000両 / 1航海  
借船 20両程度

③ “菜の花の沖” の意味するところがここにある。

## ①商品作物の増加と物流：農業技術の向上・効率化による商品作物の収穫増加

- ・ 収穫 ↗ 年貢米+余剰米、商品作物 ↗ 換金性高い作物→換金
- ・ 各地の産物の流動←増産：北国の産物との交換、
  - ・ 動物性肥料（干しか、金肥）が生産を向上させる。
 生産性向上と消費者への分配 → 経済成長と生活レベルの向上  
 嘉兵衛の人生目的：儲け（射利）追求だけではなく、経済を廻し、社会を豊かにすること。結果として儲けがついてくる。

## ②動く総合商社← 物流の促進

大千石船1500石船「辰悦丸」建造→持船頭になる。船価約1500両・・・1.5億円  
 北前船の収益約1000両/1航海・・・年1回  
 1～2航海（1～2年）で持船 → 荷主・販売会社・船主・船長  
 沖船頭（雇われ船頭）では儲け微少 20両程度

## ③司馬“菜の花の沖”の意味するところは？

商品経済（資本主義経済）のしくみ

淡路島の農家→菜の花栽培→菜種油→樽詰で北前船に→各地で売買→蝦夷地売買→蝦夷地の暖房・照明→蝦夷地商品の収穫向上→漁業増収（鮭、鱈、鯨・・・）→肥料干鰯・金肥→各地で販売→各地の生産増加→淡路の菜の花の生産増加 →菜種油生産量増加→spirally increase・・・> 商品経済発展

→嘉兵衛の“商品経済哲学”が構想の底辺のところで“幕府の蝦夷地開発・経営”と繋がり、嘉兵衛は幕府に不可欠な人物となって取り込まれてゆく。

## 質問3： 嘉兵衛を取り巻く人脈？ 徳は孤ならず

### 「時」と「人」に巡り合ったタイミングの妙

高田屋嘉兵衛の人脈						
高田屋グループ	廻船業など	幕府高官	当時の著名人(弟子筋などで間接的に繋がる)			
兄弟6人(資格持船船頭)			大黒屋光太夫	1751-1828		
嘉兵衛	北風荘右衛門貞幹	松平信濃守忠明			伊勢沖船頭1782	アムチカ島漂流
嘉蔵	工楽松右衛門	蝦夷地取締 書院番頭	麻田剛立	1734-1799		天文学者
喜兵衛	和泉屋伊兵衛	三橋藤右衛門成方	高橋至時	1765-1804		天文学者
金兵衛	栖原角兵衛	勘定吟味役	間重富	1756-1816		天文学者
嘉四郎	白鳥勝右衛門	高橋三平重賢	工藤平助	1734-1801		医者、経世家
嘉十郎	白鳥新十郎	松前奉行、のち越前守	只野真葛	1763-1825		国学者、思想家
高田屋叔父	.....	.....	本多利明	1743-1821		数学者、経世家
堺屋喜兵衛(廻船業)	ロシア人	蝦夷地探検家				
彦助	リコルド	近藤重蔵				
七兵衛	ゴローニン	間宮林蔵				
又蔵		最上徳内				
文五郎		天文学者				
金蔵		伊能忠敬				
嘉兵衛の家族						
妻おふさ						
娘 くに						
息子弥吉						

## 質問4. 嘉兵衛の魅力は？ マルチ人間

**民**: 企業家、漁師、船頭、船主、荷主、海運業、造船業、  
**官**: 幕府定雇船頭・場所請負人・官船建造・造船所、兵員輸送  
 ・漁場開発・移植・インフラ

1. 貧しい環境, 体力/知力 ↑ ・研究熱心・パイオニア精神
2. 事業対象 → 蝦夷地海運・商品経済
3. 事業発展の転機/展開方法
4. 商業資本 → 産業資本 = 幕府に重用
5. 柔軟性 → 幕府が登用
6. 情報収集力 → 地域商品市況
7. ヒューマニスト
8. 交渉(外交)手腕
  - ・優れた船頭 ← 海難事故なし・優れた企業理念・人間的魅力(人徳)
  - ・幕府高官の信を得る人柄)・子弟教育・慈善家・貧者側に立つ = アイヌ撫育
  - ・クリーン

## (3) 嘉兵衛たちの乗った千石船

### 1) 経緯一般

●**海運環境**：徳川幕府の**大船建造禁止令（1635年）**と**鎖国政策（1639年）**により日本船の海外渡航の機会が途絶えたが、**国内海運は発展**した。

### ●**海運/水運のニーズ増加**

**商品経済の発展：農業技術向上 2) 商品作物↑ → 海運/水運のニーズ↑**

- 1) 年貢米の回送：西回り、東回りで→大阪、江戸
- 2) 日用雑貨、肥料：酒、木綿、油、醤油、紙、薬種 大阪←→江戸の幹線航路
- 3) 大量の木材：造営や土木工事のための
- 4) 河川の開鑿：淀川、利根川、信濃川

### ●**航路開発と利用**：

- ・**西廻り航路**：日本海沿岸の諸港から瀬戸内海を通過して大阪・江戸に至る航路
- ・**東廻り航路**：日本海沿岸の諸港から津軽海峡を通過して江戸にいたる航路

**河村瑞賢は幕府の年貢米回漕体制を確立**した。

- ・1670年に東廻り航路で奥州の幕領米を江戸に回漕、ついで、
- ・1672年に西廻り航路で江戸に回漕

**海陸一体化輸送**：沿岸航行の結節点である河川の河口に大きな港を整備し、海上交通と河川交通および陸上交通の一体化。

## 2) 弁財船の発達

▼種類：当初、**弁財船**、**二形船**、**伊勢船**があった。（船首形状が夫々、水押し造り、箱置き、箱造り）その後、**弁財船が発達する**。

▼弁財船：

### 1) 弁財形和船（菱垣廻船、樽廻船、北前船として使用）

構造的にはフレームなどの骨格を持たず、板構造で釘やかすがいで強固に接合された船である。船底にバー・キール(bar keel)のように深くなった部分が追加され横流れを防ぐ抵抗が増加するように工夫されたものもある。

### 2) 帆走性能

江戸時代以前の和船では、**追い風のみで帆走**とし、向かい風の場合は強風下では風待ち、微風時は大勢の漕手が櫓で推進したが、弁財形船では横風で一番早く進むようになり、風上にも少しは推進できた。これにより**風待ち時間がなくなり水夫の数も減らすことができ**運航効率が向上した。これが弁財形船が江戸時代の海運輸送システムの中核となった理由といわれている。

3) **弁財形船**は洋式船に比べて**平水中性能は優れるが波浪中の耐航性能が劣る**と云われ黒船来航以降の新しい船型を発展させる発端となる。

※**弁財船名前の由来**：

- ・中世、運漕を司った**弁財使の名称**から、或いは、舳先船（へさきのある船）からという説。
- ・弁財天：人に財と福知を与え延寿と財宝を与える。天災、地変を除滅して戦勝をもたらす。水を神格化

### 3) 弁財船の形状と構造

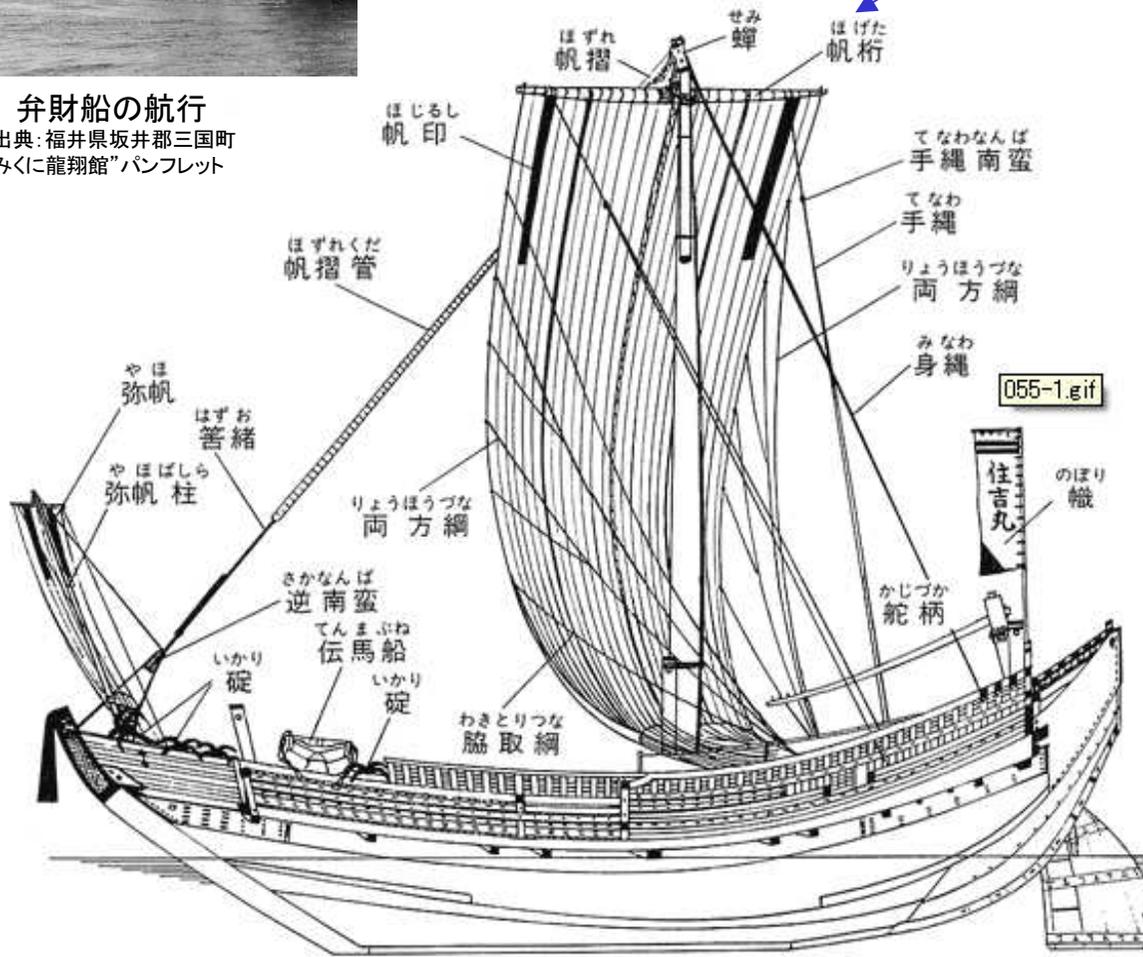


弁財船の航行  
(出典: 福井県坂井郡三国町  
“みくに龍翔館”パンフレット)

### 弁財船の艤装

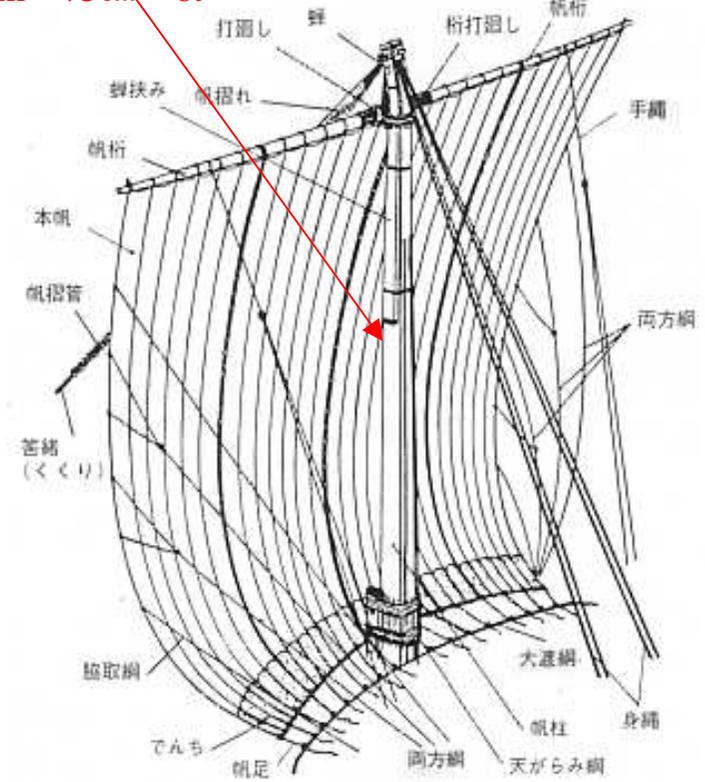
帆柱:  $L \times \square \times w = 27m \times 75cm \times 6t$   
たいまつ柱

$B \times \Phi = 19m \times 40cm$



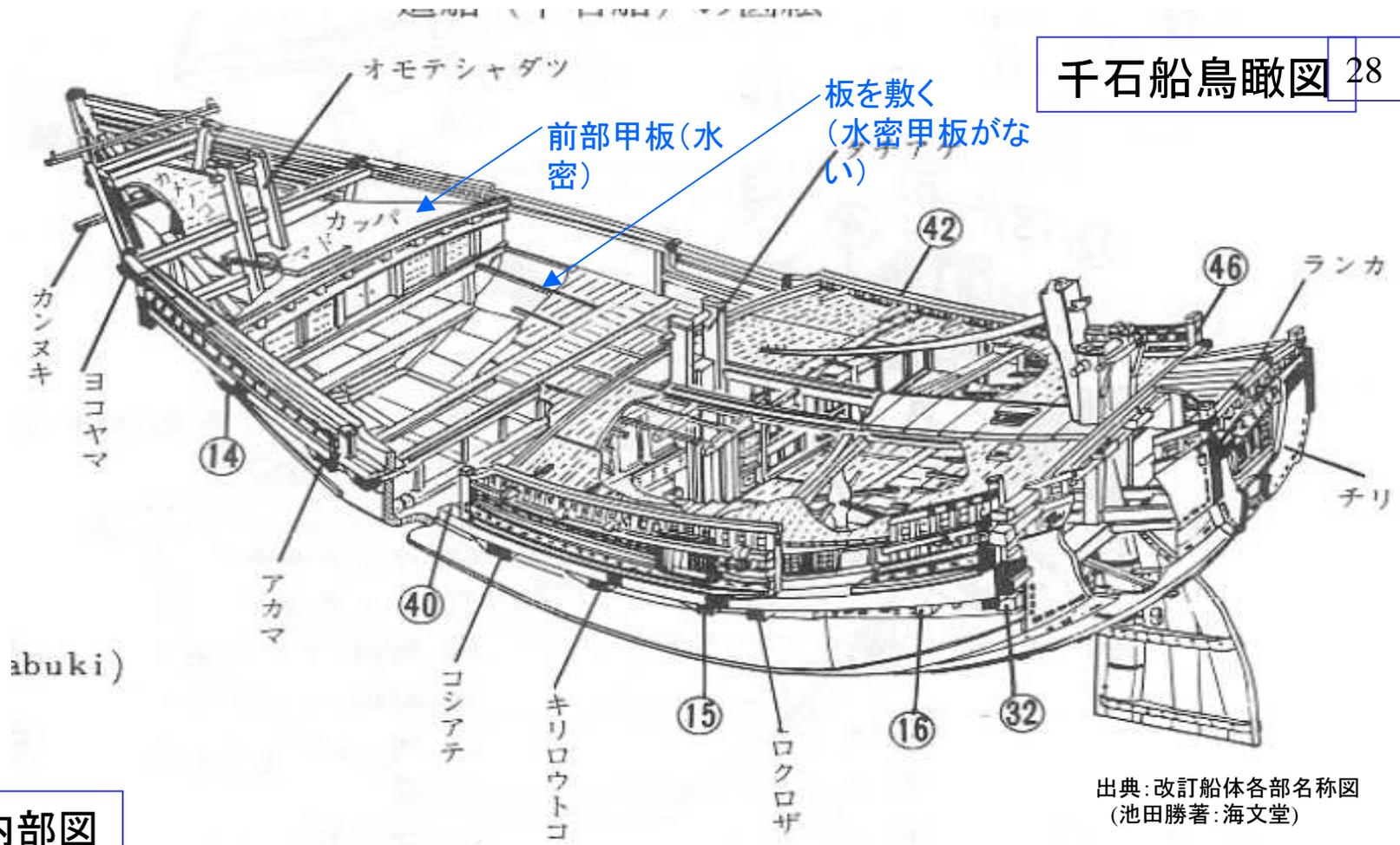
舵を上げる

$L \times t \doteq$   
 $10m \times 10cm$



弁財船の艤装(石井謙治「和船」より)





千石船内部図

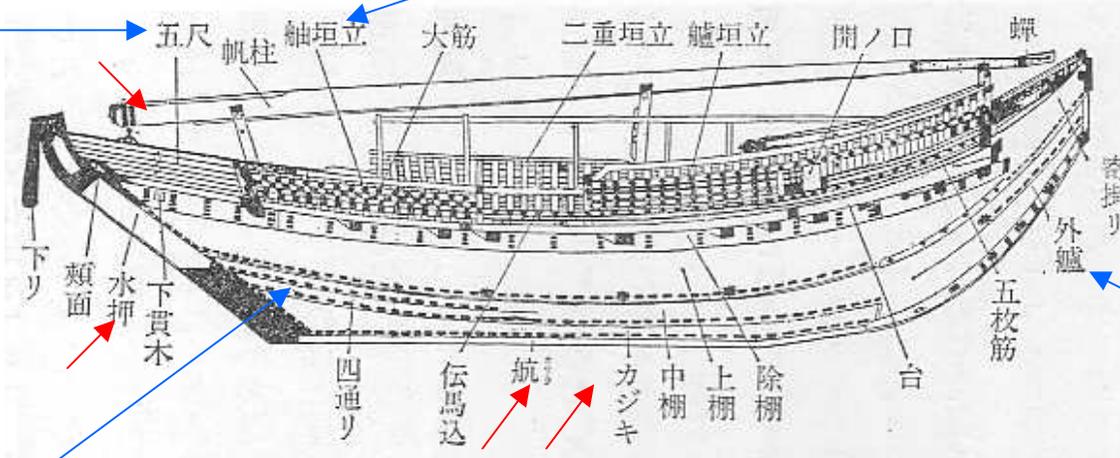
出典: 改訂船体各部名称図 (池田勝著: 海文堂)



西宮市郷土資料館展示模型

船首楼もどき  
とりはずし可

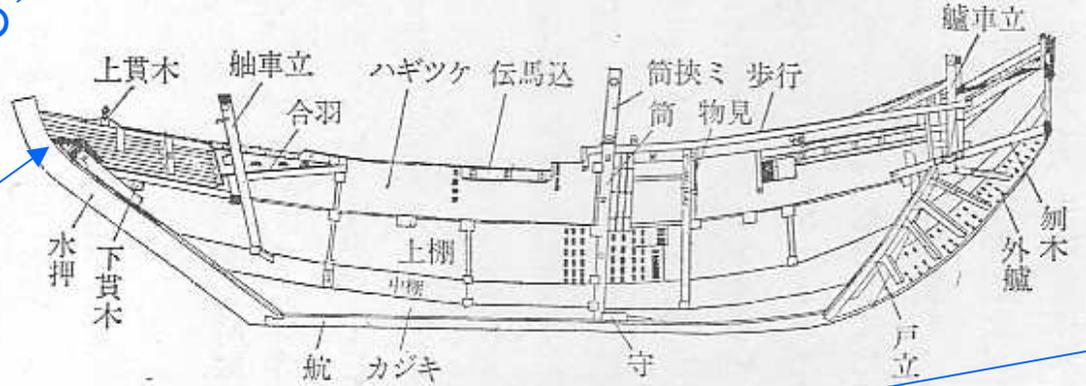
Bulworkもどき、装飾



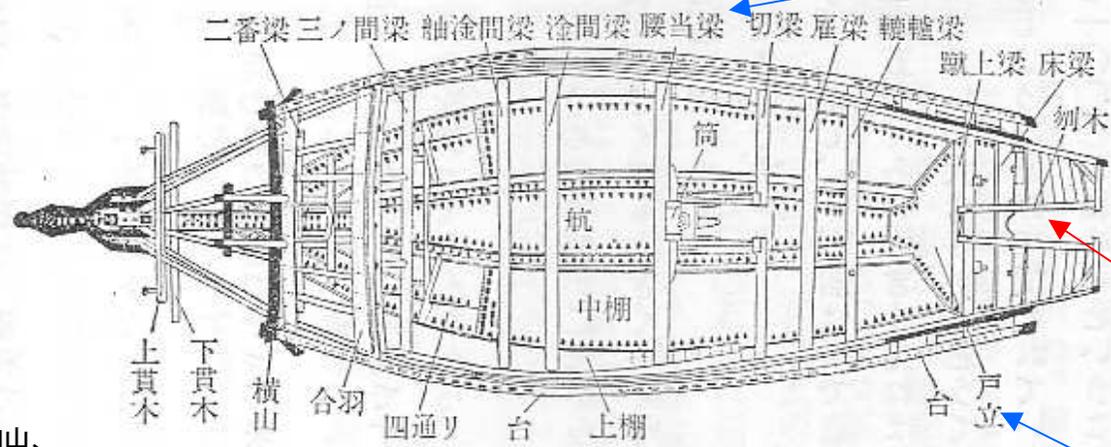
そとども  
曲りが急な  
船尾船側  
板厚≒4cm

Stemへの舷側板の  
接続(四通り技法)

Stem



腰当船梁、  
この後に帆がある。  
1000石船で  
20mH×18mB  
織帆木綿帆布  
工楽松右衛門帆  
24反帆(1反=75cm)



Transom状蓋

出典: 千石船入門  
(南波松太郎著: 船・地図・日和山、  
法政大学出版局、1984)

第2図 千石船(弁財船)説明図



デッキ



船首



船尾



轆轤(帆を張る)



神棚

菱垣廻船「浪速丸」  
なにわの海の時空間にて  
(野澤撮影)



船倉

まとも(真鱻)走り

開き走り

右舷びらき

(風を左舷から受けるときは逆操作: 左舷びらき)

まぎり走り (詰開き)

Jig-Zagに航走する

船速



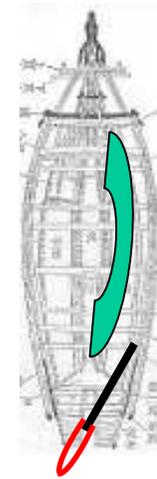
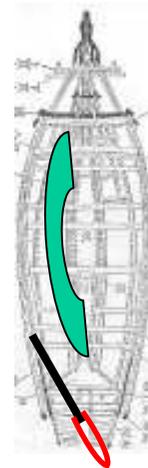
帆の両側に取り付けてある孕繩(手繩・両方繩・脇取繩)などを操作する。

帆

(まほ: 真帆)



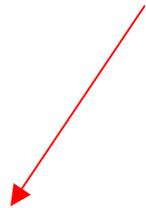
(かたほ: 片帆)



舵



風向



## 2)和船操船法

# (4) 嘉兵衛の起業場所: 兵庫歴史探訪



嘉兵衛献納船舶安全祈願の石灯籠

- ② 鎮守神社  
嘉兵衛献納の船舶安全祈願の石灯籠
- ③ 七宮神社
- ① 竹尾神社



顕彰碑と田緒

川崎重工

## (5)高田屋関所とその後：「異国船との密貿易」の嫌疑/冤罪/追賞)

**1)発端:** 嘉兵衛没してから四年後の天保二年(1831)松前藩主松前志摩守章宏は後継者高田屋金兵衛の雇船船頭重蔵以下12名の乗組員を“旗合せ(船標※)を船に立てた異国船との密貿易)”の容疑で逮捕し、江戸幕府に報告した。

※ ゴローニン釈放に対する先代嘉兵衛へのリコルドの厚意によりロシア船と“船標密約”が結ばれた。山高印の小旗を標識として自船に立てておけば、ロシア船は赤布を出して応え、高田屋の船には一切略奪行為をしないという密約。

**2)判決： 江戸幕府、勘定奉行評定所の判決内容：天保四年(1833)**

- ①密貿易はなかった。
- ②船標密約を秘密裏に金兵衛(2代目)の時代に引き継いだ。
- ③禁足が命じられた金蔵を大阪店に勤務させ乗船させた。
- ④金兵衛・嘉市父子が取り調べにあたり容疑を素直に認めなかった。

**判決:** 金兵衛の追放処分と船関所(手船すべて没収、つまり、“高田屋取り潰し”) 嘉市、重蔵以下水夫は応分の罰を受け、金蔵は無罪放免。

### 3)重罪となった要因

密貿易容疑が晴れているにも拘らず重罪となった裏面の要因として、松前藩(松前商人)による嫉妬・怨念による陰謀が絡んでいたのではないかという説がある。松前藩の蝦夷地支配権は慶長九年(1604)家康から藩祖慶広にお墨付三条(北海道、樺太、千島の独占的支配と商業的特権)で委ねられてきたが、

- ①**高田屋の台頭:** 幕府は蝦夷地を直轄化(松前藩は上地となり武州に代償地)し嘉兵衛を定雇船頭として場所請負人(幌別、 択捉など)としたため、商業的特権が松前藩から高田屋に移った。
- ②**金兵衛の奢侈:** 彼の時代になって屋敷、調度品等に松前藩領主をしのぐ不相応の奢侈贅沢を尽くしたため、これに対する悪感情などが松前藩に累積し①に加えた怨念があった。蝦夷地直轄支配を終了(1821)し蝦夷地支配と特権を復権した松前藩は警察権限を持つに至り、船標密約事件を機に高田屋転覆を図ったことが推測される。

### 4)名誉回復(赦免と正五位追賞)

1869年(M2) 函館総督府から赦免、1880年(M13)太政大臣による採録と追賞金贈賜、1911年(M44) 近藤重蔵、間宮林蔵と共に正五位を贈賜された。以上によって、高田屋の名誉は完全に回復された。

## § 2. ゴローニン事件とその解決

### 1) 背景:

#### ●アダム・ラックスマン来航(1792): 第1回露国公式使節団

ラックスマンは女帝エカチェリーナ2世(1729-96)の命により、根室国に大黒屋幸太夫<sup>注</sup>ら3名(1782年遭難)を送還し通商を求めた。将軍に直接国書を渡すべく江戸湾入航を要求した。(幕府は入港許可証(信牌)を与え長崎に行くように指示したが、箱館にて3名を引渡し露船は帰国した。江戸湾奥深く入航を希望したロシアの態度は幕府を大いに刺激し、蝦夷地、房総・江戸湾等の海防強化を各藩に命じた。

注)大黒屋幸太夫ら17人は1782年12月神昌丸にて伊勢白子から米その他を積んで江戸に向かう途中暴風に会い、8ヶ月後の翌年8月アリューシャン列島アムチカ島に漂着、難破した。その後仲間がつぎつぎと死没しながら、カムチャッカを経てイルクーツクに辿り着く。植物学者キリル・ラックスマン(アダムの父)の絶大なる支援を受け帰国嘆願のためペテルブルグに行く。エカチェリーナ女王に謁見して帰国が許された。

#### ●ニコライ・レザノフ来航(1804): 第2回露国公式使節団

レザノフはアレキサンドル一世(1777-1825)の命により、ラックスマンが持ち返った信牌と親書を携えて長崎に来航(1804-10/8着)。津太夫ら(漂流若宮丸)を送還し日本との通商を求めた。幕府はこの正使節に極めて冷淡に対応し、六ヶ月間も半軟禁状態で港内に停泊させた挙句、国書、贈物の未受理、通商拒否、再来航は不可、即退去を言い渡した。レザノフは激怒してカムチャッカに回航、その後、蝦夷地襲撃を準備した。「私は日本を攻撃します。」と皇帝へ上奏文を送るが許可の到着を待たずにフヴァストフ、ダヴィドフに襲撃を命令した。↓

#### ●露寇事件(1807): フヴァストフらによるサハリン、クナシリの日本人部落襲撃

→ロシアの圧倒的攻撃は幕府を震撼させた。幕府は全蝦夷地を直轄とし、東北諸藩に臨戦態勢を命じた。蝦夷地沿岸の警備強化のため奥羽諸藩3000人の出兵と3隻の艦船建造<sup>★</sup>を急ぎ、露船打ち払い令を出した。

➡ 嘉兵衛は、兵員輸送、艦船建造を命じられ、仙台藩の用達となった。



Николай Петрович Резанов



レザノフ持参の長崎入航許可書（ラクスマンが入手した信牌）

出典：特別展「豪商 高田屋嘉兵衛」資料（高田屋嘉兵衛展実行委員会）2000年

ナジェージダ号(Надежда:希望)

L×排水量× 檣×帆×大砲×乗組  
44m 450ton 3 32枚 24門 85人

レザノフ来航：幕末の砲艦外交(www)



ナジェージダ号  
(視聴草より  
国立公文書館)



### レザノフ：優秀な官僚、経営者、不運な使節、狂った結末、客死

ニコライ・レザノフは皇帝アレクサンドル一世の信頼厚い宮廷侍従長であり、また皇帝を大株主とした極東の独占企業である露米会社の経営者であった。その発展には日本との交易が不可欠である考え、使節の派遣をロシア皇帝アレクサンドル1世に請い、親書を携えた遣日使節団として来日した。日本人漂流民の津太夫一行を送還する名目でラクスマンが入手した信牌を携え世界一周航海艦隊の隊長としてナジェージダ号でペテルブルクを出航した。南米回り太平洋経由でカムチャツカへ到着、1804年(文化元年)9月に長崎の出島に来航した。しかし、鎖国を旨とした幕府は交渉を諦めさせるべく出来るだけ冷淡に接し半年間レザノフたちを出島に軟禁状態で待たせあげく翌年になって通商を拒絶された。レザノフは立腹してカムチャツカに帰るが、全権大使としての対面を侮辱され交渉が進展しなかった経験から「日本に対してはもはや武力をもって開国させる以外の方法はない」と皇帝に上奏し、部下のフヴォストフに命令を出し1806年に樺太松前藩番所、1807年に択捉港ほか各所を襲撃した。(レザノフは帰途クラスノヤルスクで客死) ゴローニン艦長のディアナ号が千島の海に来航したのは幕府の北方防備が急速に高まった1811年のことである。

## 2) ゴローニン事件

●**発端**:ロシア皇帝はゴローニンに①世界一周、②ロシア領内の地理学的探検/測量、オホーツク港への軍品の輸送を命じた。スループ艦「ディアナ号」にて1807年7/25KS出発、1809年9/23カムチャッカ到着、1811年千島海域を測量

### ① ゴローニン事件(1811~1813)発生 :

- ①クナシリ南端ケラムイ岬に上陸して“水、薪、米”の補給を依頼した。
- ②幕府警備士がゴローニン等7名を騙して捕縛<sup>注)</sup>、松前奉行に護送した。

注)幕府は露寇事件の再来を疑り、給依頼を了承したと見せかけ上陸したところを絡め取った。

③リコルド副艦長はクナシリ南端泊港でこの非常事態を把握し奪回の機会を探る。

### ② 高田屋嘉兵衛がリコルドにより拿捕(1812年8/13)

- ①観世丸(嘉兵衛船長) 泊港近海を航行中、ディアナ号 (リコルド副艦長) に拿捕<sup>注)</sup>され、ペトロパブロフスク・カムチャッキーへ連行

注)ゴローニン艦長を助け出すためには日露間外交官としての幕府高官が必要であった。

③ **リコルド/嘉兵衛の協力体制** : 同室に居住させゴローニンの冤罪を説明し解決の協力を乞う。嘉兵衛はロシア語を習得。紆余曲折を経た約1年後、嘉兵衛は下船し幕府側にフヴォストフ・ダヴィドフの襲撃は私的な襲撃であると説明、ゴローニンの冤罪を求めた。1813年10月幕府は承認しゴローニンと嘉兵衛の交換釈放が成立した。

### ④ ゴローニン事件解決の意義 → ☆ 強国ロシアと日本との戦争が回避できた。

- 1) 日露関係の沈静化 (文化11年1814魯人と界域を定め...是より後、露船復来らず、北辺静平なり。(徳川15代史))
- 2) 嘉兵衛+政府高官の連携 : 高品質な民間外交の力
- 3) ゴローニン著「日本幽囚記」およびリコルドの手記が日本とその良さを世界に紹介
- 4) 日露交流の継続 (カムチャッカの三山に3人の名前を命名) ニコライ堂:イワン・ドミートリエヴィチ・カサートキン



ゴローニン艦長



リコルド副艦長



ディアナ号

高田屋嘉兵衛  
ТАКАТАИ-КАХИ.

ディアナ号(Диана:ダイアナ)

L × B × L/B × 檣 × 帆 × 大砲 × 乗組  
40m 9m 4.4 3 32枚 24門 72人

"В каждой земле есть свои войны,  
но прямо добрых дел не везёт там  
ищутся?"

Слова Митсудзидзю,  
см.: Записки Капитана  
№ 2, стр. 185.

### 3) 今も続く日露友好

継続する友情：子孫の集い

嘉兵衛、ゴローニン、リコルドのそれぞれの子孫が約200年の時を経て再会した。2006年、カムチャツカ州政府はロシア地理学会の発案を受け、ナリチェヴォ自然公園内の3つの山を

「ヴァシリー・ゴローニン」 (1333m)

「ピョートル・リコルド」 (1205m)

「タカダヤ・カヘイ」 (1054m)

と命名した。



### § 3. 日本の北方領土問題の経緯と現在

徳川幕府、蝦夷地探検家最上徳内、近藤重蔵、海商高田屋嘉兵衛らが拓いた北方四島は世界有数の良漁場となり、昭和20年8月15日の時点で計3,124所帯、人口17,291人の島であった。しかし、ポツダム宣言受諾直後、ソ連(現ロシア)により侵攻・領有され、サンフランシスコ講和条約(1951年9/9)で千島列島放棄が明文化されて以来、現在もロシアの実効支配が続いている。数度の日露首脳会談が行われてきたが日露の主張(日本:四島一括返還主張)は平行線を辿り約60年たった今も領土問題は未解決である。最近、ロシアの北方四島に対する開発意欲が増し積極的行動が報じられている。日本政府は「不法占拠」という空しい言葉の抗議に終始して戦略無き弱腰外交が問われている。以下に沿って概観したい。

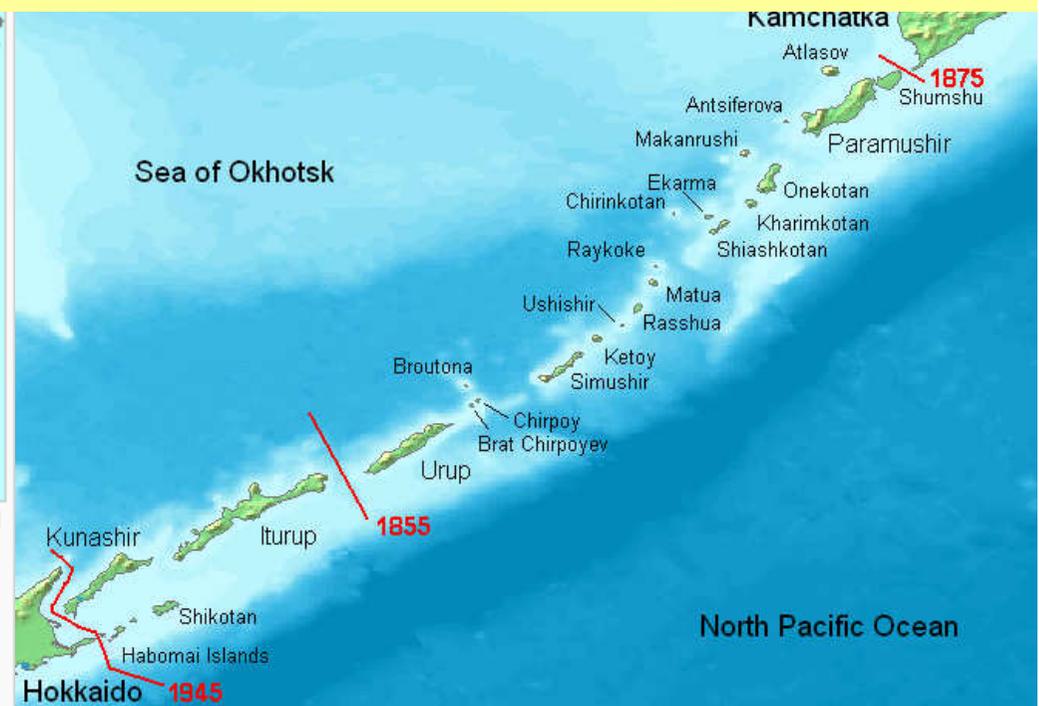
- ① ロシア・メドベージェフ大統領の国後島訪問(2010年11月1日)
- ② ロナルド・ドーア氏の論評:日本の北方領土問題への対応の悪さと決着へのヒント
- ③ サンフランシスコ平和条約では千島列島の領有をどのように記載しているのか。
- ④ 北方四島の領有権に関する日本外務省の見解と歴史的経緯
- ⑤ 北方領土問題の経緯:年表
- ⑥ サンフランシスコ平和条約における「千島列島放棄」判決の根拠(私的意見)、⑦ 日本のとるべき方法(私案)

図の出典:北方領土問題-Wikipedia  
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8C%97%E6%96%B9%E9%A0%98%E5%9C%9F%E5%95%8F%E9%A1%8C>



A. 歯舞群島(歯舞諸島)、B. 色丹島、C. 国後島、D. 択捉島

1. 色丹村、2. 泊村、3. 留夜別村、4. 留別村、5. 網走村、6. 森岡村



## ①ロシア・メドベージェフ大統領は日露係争の地“国後島”を訪問 (2010-11/1)

菅政権は国会で、「弱腰外交」批判にさらされた。日本は北方四島の返還を叫んできたが最近では論理的交渉方法を模索せず、ひたすら、「ロシアの不法占拠」と叫ぶ政治家の不快な姿を見るたびに稚拙で危うい日本外交に憤慨する国民は多い。日本の歴史家・政治学者・経済学者は歴史的経緯を謙虚に分析し世論に問いながら戦略的解決方法を模索することを何故しないのか口惜しく感じる。

## ②ロナルド・ドーア氏の論評

こんな折、日本の対応を見兼ねたのか英国の政治学者ロナルド・ドーア氏の投稿記事「時代を読む」が東京新聞(2012-2/20付)に掲載された。日露係争の経緯、サンフランシスコ条約判決の誤解、日本の対露交渉の拙さ、今後のとるべき方法などが明快に述べられており、「正にこれだ！」と溜飲が下がる論評であった。(日本人は自国のためにこの種の明解な論評を何故、書かないのか。)



# ロナルド・ドーア氏の論評： 日本の北方領土問題への対応の拙さと決着へのヒント

(2012-2/20 東京新聞)

## 時代を読む

ロナルド・ドーア



### 日口の病根を除く

時々日本の外務省は、一度採用した外交路線を放棄できずに成り行きに任せ、しまいにはじつちもさつちもいかなくなってしまうことがある。北方領土問題をめぐる対口関係が正にその典型である。

日本政府はこれまで、旧総務庁の前に一北方領土が帰る日・平和の日」という大きな石碑を建てたり、国後も択捉もわれわれの島だ」という国民感情に訴えてきた。

これに対しロシアは、日本の主権を認めるような考えは基本的にはないが、勅諭日本の経済力や、少しずつ増大してきた外交力に敬意を表し、日交力の衰退も一つの原因だが、最近ではメドベージェフ大統領が国後島入りして以降、ロシア閣僚の訪問が相次ぎ、軍事的な防衛強化も発表するなど、「日本が主張する『主権の問題』は毛頭ない。交渉する意思はもうない」と、きっぱり告げた格好だ。

明な道で、尊厳ある主権国として面目を失わない諦め方を探さなければならぬ。

そういふ道を国際司法裁判所が与えてくれた。ロシアの北方四島にロシア領は不法だと、日本が訴えればいい。もちろん、ロシアに撤回し、訴えられたら感じるこの確約

本国民感情の手前もあって、日本のクレームには一応、真面目に対応してきた。ところが、日本の経済力・外

交力の衰退も一つの原因だが、最近ではメドベージェフ大統領が国後島入りして以降、ロシア閣僚の訪問が相次ぎ、軍事的な防衛強化も発表するなど、「日本が主張する『主権の問題』は毛頭ない。交渉する意思はもうない」と、きっぱり告げた格好だ。

3 総合・核心 11版 S 2011年(平成23年)2月20日(日曜日)

## 機会に

を取り付けることが前提となる。それは、慣習外交官の良い努力が必要だろう。小泉純一郎元首相の北朝鮮訪問の準備工作として、田中均氏が北京で交渉し、拉致の事実を認める約束を取ったようにだ。

仮に裁判となった場合、日本が負ける確率が高いというのが、国際法の専門家の意見だ。理由は、サンフランシスコ条約で日本ははっきりと主権を放棄してしまったからだ。ただ、日本は裁判に負けてもそのままいれば、世界の目にはロシアに認められた国ではなく、平和的国際関係の法的秩序構築に貢献した国として映る。漁業権など実質

的ない利益を守るのも、逆にやりやすくなるかもしれない。

日本の最近の北方領土問題に関する主張は、歴史的事実に訴えないのでおかしかった。明治八(一八七五)年の樺太千島交換条約で、樺太はロシア、安政条約で既に認められた国後、択捉二島のほか、それ以北の千島列島も日本の所屬と決まった。日露戦争の結果として日本領土となったのは樺太の半分だけである。

戦争が終わろうとするとき、戦争が終わろうとするとき、のヤルタ会議で、連合国が「口独には帝国主義的侵略によって得た領土を返還させる」という原則を決めたが、千島列島がそうして得た領土ではないことが当時分かっていなかった。その間違いはタレス米國務長官によってサンフランシスコ条約に持ち込

まれ、吉田茂首相が自信を言ったが、タレス長官は「ロシアとの関係が微妙なときになるさいことを『口独』と抑えてしまった。さらに、日口両国の親睦を形勢しようとして横槍を入れ、「沖縄を返すのも危うくなるぞ」と脅した。

その後、日本は「明治八年の条約がある。国後、択捉は戦果ではない。ヤルタ会議での米国の誤解だった」などの論法を展開せず、条約における「千島列島」の定義など、些細な法文解釈に基づいた論法しか続けてこなかったからだ。

いずれにせよ、これを機会に六十一年間の日口関係の病根を国際司法裁判所が取り除いてくれれば、サッパリするだろう。(英ロンドン大学政治経済学大学院客員レクター・ドール Ronald Dore © alimail)

## ③サンフランシスコ平和条約では千島列島の領有をどのように記載しているのか 53

### サンフランシスコ平和条約

#### 第二章 領域

#### 第二条【領土権の放棄】

(a)、(b)・・・略

(c)日本国は、……**千島列島**並びに日本国が千九百五年九月五日のポーツマス条約の結果として主権を獲得した樺太の一部及びこれに近接する諸島に対する**すべての権利、権原及び請求権を放棄**する。

## ④北方四島の領有権に関する日本外務省の見解

日本の見解 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/hoppo/hoppo.html>

### § 1. 定義の問題

- 1) **千島列島**: 北方四島は千島列島の中に含まれていない。
- 2) ソ連はサンフランシスコ平和条約に署名していない。同条約の権利の主張することが出来ない。

### § 2. 協定違反

- 1) 第二次大戦末期の1945年8月9日ソ連は当時まだ有効であった**日ソ中立条約に違反**して対日参戦
- 2) **ポツダム宣言受諾後**にも拘らず、8/28から9/1までに、択捉・国後・色丹島を占領、9/3から5日にかけて歯舞を占領。

上記に対するロシアの見解はつぎのように云われている。

### § 1. 定義の問題

- 1) 千島列島には**国後、択捉**が含まれていることは勿論のこと、**歯舞、色丹**も含まれている。

### § 2. 協定違反

- 1) ……
- 2) 日本が降伏文書に**調印する9月2日までは日本とソ連の間ではまだ戦争が続いていた**というのが ロシアの立場であり、降伏文書調印以前の**占領は合法**であるという立場である。

# ⑤北方領土問題の時系列年表

年	月日	内容		ソ連の行動	備考
1798		近藤重蔵「大日本恵十府」標柱			
1855		日露通商条約			}
1875		千島樺太交換条約			
1905		ポーツマス条約			
1941	8月	太平洋憲章	4月	日ソ中立条約 ↑	
		<b>日米開戦</b>			Roo→St親書2P
1942	6月	ルーズベルト親書→St			
1943	10月	モスクワ会談			
	11月	カイロ宣言(日本略奪島取上げ)			1 同盟国:領土拡張の考えはない 2 I 大戦後日本が奪取した領土返
	11月	テヘラン会談 St※要望匂わす			
1944	12月14日	St→米大使ハリマン ※南樺太、千島列島領有要求			
1945	2月	ヤルタ会談(米英ソ) 戦勝権益の分割案			
		ドイツ降伏後ソ連対日参戦見返りに		南樺太を返還、千島列島引渡す	
			4月5日	日ソ中立条約を破棄通告	
			8月9日	ソ連対日参戦	
		南樺太・千島諸島ソ連に降伏		北海道東北部の占領要求は拒否	
1945	8月14日	ポツダム宣言受諾			
	8月15日	玉音放送			
			8月28日	北方領土エコシ占領	}
			↓		
	9月2日	連合国防伏文書調印	9月1日		
			9月3日	ソ連:ハ占領	
			↓		
1946	1月29日	GHQ指令:南樺太千島列島H、S行政権	2月2日	自国に編入併合国有化 有効期間 ↓	
1951		<b>サンフランシスコ平和条約</b> <b>日本は千島列島を放棄</b>	4月		●
		吉田全権:千島列島侵略奪取でない固有領土			
1951	10月	衆院特別委 南千島は千島に含まれると発言あり。取り消された。			
1955		日ソ平和条約交渉始まる			
		2、4、重光/ダレス			
1956		日ソ共同宣言発効w/o領土問題			

## ①日露通商条約(1855)

国境の定義: 日本北限は択捉島、  
ロシア南限はウルップ島を確認



## ②千島樺太交換条約(1875)

日本は千島列島( シュムシュ島~ウルップ島)をロシアから譲り受ける代わりに、ロシアに対して樺太全島を放棄した。



## ③ポーツマス条約(1905)

日露戦争後のポーツマス条約において日本は樺太(サハリン)の北緯50度以南全島の部分を譲り受けた。



出典: 外務省の見解  
外務省: 北方領土問題とは.doc

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/hoppo/hoppo.html>



④ **サンフランシスコ平和条約**（1951年4月）  
日本はポーツマス条約で獲得した樺太の一部と**千島列島**※に対するすべての権利、権限および請求権を**放棄**した。

▲ **日本の見解(前掲)**

- 1) 千島列島: 北方四島は千島列島の中に含まれていない。
- 2) ソ連はサンフランシスコ平和条約に署名していない。同条約の権利の主張することが出来ない。

## ⑦ サンフランシスコ平和条約における「千島列島放棄」の根拠（私的感想）

① サンフランシスコ平和条約「千島列島放棄」判決の根拠が明らかでないが、よく言われるように、

② 戦勝国の「領土不拡張」を旨とする**カイロ宣言**（第一次世界大戦以後に日本が奪取した太平洋諸島の領土を剥奪する）を根拠とするものであれば、千島列島は日本固有の領土（**千島樺太交換条約1875**により）である故、「放棄」の条項は正しくないことになる。吉田茂全権の主張（調印時にこれを指摘したが押し切られた。）や②ロナルド・ドーアの論評はこれに沿うものである。

また一般的な評価もこれに近い。

③ さらに、ソ連(ロシア)が行った日ソ中立条約違反による対日参戦やポツダム宣言受諾後の北方四島への侵攻領有などの問題が問われてきている。実効支配しているロシアにとっても後味が悪いことであろう。

## 日本のとるべき態度

ロナルド・ドーア氏の明快な論評は日本の指針となろう。

- 1) 政治家、歴史家が歴史的経緯に沿い、国際法、倫理的観点から整理・分析して主張を簡潔に平易にまとめ、国民の意見も問う。
- 2) 日本の世論のみならず、世界の世論にも投げかける。
- 3) 現住するロシア人の立場も考慮し、お互いの接点を見つける。
- 4) 受け入れ可能な妥協点を設定する。四島返還のみに固執すべきではない。社会科学、人文科学、自然科学の各見地から両国が友好に共存共栄できる方法を考えることも新しい解のひとつである。
- 5) 今年3月現プーチン大統領談話(柔道を説くプーチン(道:Путь)): 本件に並々ならぬ熱意を持っている様子である。彼曰く“日露の各代表がテーブルについて”よい、はじめ“で発展的にディベートするのも一案

いずれにしても、この長い懸案事項、「不法占拠」などという安易な言葉で物別れに終始するのは懲り懲りである。明快な論拠と相互の立場を考えてすっきりした交渉の入り口に入り、早期に解決してもらいたいものである。

## 【まとめ】

fine

### 1. “あの時代に生きた人間の中では嘉兵衛が一番偉い”（司馬遼太郎談）：

海運商品経済を発達させ、蝦夷地防備に協力し、国後・エトロフ航路開拓・漁場開発・経営、インフラ整備に尽力したマルチ人間

### 2. 「菜の花の沖」の意味：

商品の連鎖反応的循環、商品経済の発展が人々の生活を豊かに

### 3. ゴローニン事件の解決：

日露関係を改善、日本を世界に紹介、人間の真心

### 4. 嘉兵衛から北方領土問題まで：

連綿と続く歴史があった。歴史を再考し、筋道を示し、相手の立場も考えてすっきりした交渉の入口に入ってもらいたい。四島の相互平和的解決を期待したい。

**参考文献:**

1. 司馬遼太郎:菜の花の沖 全6巻、文春文庫
2. ゴローニン著、井上 満訳:日本幽囚記 全3巻、岩波文庫
3. 生田美智子:高田屋嘉兵衛、ミネルヴァ書房
4. 柴村羊五:北海の豪商 高田屋嘉兵衛、亜紀書房
5. 黒部 亨:高田屋嘉兵衛、神戸新聞総合出版センター
6. 須藤隆仙、好川之範:高田屋嘉兵衛のすべて、新人物往来社
7. 特別展「豪商 高田屋嘉兵衛」資料(高田屋嘉兵衛展実行委員会) 2000年
8. 中川清治:史伝高田屋嘉兵衛、審美社
9. 加藤貞仁、鐙啓記:北前船 寄港地と交易の物語、無明社
10. 南波松太郎:船・地図・日和山、法政大学出版局
11. 石井謙治:和船Ⅰ、法政大学出版局
12. 石井謙治:和船Ⅱ、法政大学出版局
13. 須藤利一:船、法政大学出版局
14. 安達裕之:日本の船一和船編一、船の科学館
15. 船の科学館 資料ガイド10:菱垣廻船/樽廻船
16. 関西造船協会シンポジウム:菱垣廻船を通してみるなにわの昨日・今日・明日、2000
17. 山田淳一:江戸時代の航海物語、
18. 池田 勝:改訂 船体各部名称図、海文堂
19. 賀川隆行:崩れゆく鎖国、日本の歴史⑭ 集英社版
20. 和田春樹:開国一日露国境交渉:NHKブックス
21. 木崎良平:漂流民とロシア、中公文庫
22. 桂川甫周著、亀井高孝校訂:北槎聞略、岩波文庫
23. 井上 靖:おろしや国酔夢譚、文春文庫
24. 吉村 昭:大黒屋光太夫(上)、(下)、新潮文庫